

## 方県岩利地区 (岐阜市)

### 【岩利地区の概要と取組みへの経緯】

- 本地区は岐阜市の北部の中山間地域、稲作が基幹作物であり、水田面積は約51ha、畑面積が7haで、近年、農業者の高齢化、後継者不足、農機の買い替え困難など農業が続けられない状況が生じている。
- 地区内には担い手がなく、多くが個人経営のため、農地の集積・集約化は進んでいない。
- 農地の集積・集約化と耕作放棄地化の防止のため、「法人の設立」について地区の農業委員と推進委員も加わり検討を始めた。

### 取組開始前の状況や課題

- 平地の優良農地と水管理の不便な農地があり、農業者の高齢化や減少により耕作放棄地が増加。
- 地区の5年、10年先について、話し合う機会がなかったが、人・農地プランの検討を通して、意見が出るようになった。
- 個人農家の中から、地域農業の将来について真剣に考える機会となった。
- 将来の地域農業を維持するために、農業ができなくなった農地を引き受ける、「担い手法人」の設立を地域で検討することになった。



令和2年10月9日岩利地区説明会

### 取組内容

- 令和2年6月、農事組合法人の立ち上げについて、地元有志による検討開始。
- 令和2年11月から人・農地プランの実質化について関係者(市、JA、地区代表者、農業委員等)による話し合い(2回)を実施、令和3年3月に実質化。
- 令和2年10月、法人設立に向けた地区説明会を開催(関係農家、県・市・機構・農業委員会事務局等)。
- 令和2年12月の法人設立に向け、発起人の選出、定款等作成に向け支援を実施。公社(アグリチャレンジ支援センター)では、R2.6から現地支援4回(うち2回専門家派遣、R3.1)や相談対応4回を実施。
- 機構は地元での説明会で、農地中間管理事業や各種協力金等について説明を実施(2回:R2.11、R3.1)。
- 令和3年1月、「農事組合法人アグリスターイワリ」を設立、令和3年4月に8.5ha、10月には12.6ha 計21.1haを機構事業により集積。

### 今後の展開と方向性

- 法人の農業機械の整備のため、助成金・補助金等の活用検討。
- 法人への農地集積から、法人経営の効率化への集約化の検討。
- 農用地の暗渠・水路等の農地整備事業の検討。
- 農事組合法人の人材確保・人材育成
- 収益性のある転作作物の選定
- ◎上記課題の早期着手と実現

